

「地域農業を次代へ繋ぐ農業者へ」



越智 滋彦 (34歳) Uターン
(今治市)

1 就農の動機・理由

母親が大病を患ったことがきっかけで東京から帰郷し、実家の農業の手伝いを始めた。そして、地域の高齢化が進み、自身が生まれ育った地域の農業が衰退するという危機感を持ったことから、就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男3人 (本人、父、叔父)	男3人 女1人 (本人、父、叔父、 常時雇用1人)	男5人 女2人 (本人、父、叔父、 常時雇用4人)
経営耕地	樹園地 170a 水田 40a 畑 20a	樹園地 176a 水田 48a 畑 41a その他 47a	樹園地 271a 水田 48a 畑 85a その他 47a
経営内容	伊予柑 40a 甘平 40a 不知火 10a せとか 10a キウイ 40a	せとか 11a 甘平 48a 愛媛果試第28号 11a その他柑橘 49a キウイ 31a 水稲 48a スイカ 50a ナス 20a	せとか 31a 甘平 78a 愛媛果試第28号 90a その他柑橘 57a キウイ 15a 水稲 48a スイカ 50a ナス 30a その他野菜 35a

○農業用施設

農業用倉庫 4棟
簡易ハウス(かんきつ) 1棟 (11a)

○主要農業機械

軽トラック 2台
トラック(1t) 1台
動力噴霧器 3台
選果機 1台
刈払機 2機
ロボット草刈機 1台
コンバイン 1台
田植機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県今治市菊間町
職歴 アジアアグリ協同組合
就農研修歴
愛媛県農林水産研究所果樹研究センター
(R元.4~R元.8)
就農年月 令和元年8月

(2) 就農時の思い

菊間町佐方の農業を、50年後も残すことを目標に就農した。就農希望者が地域に参入しやすくなるよう、希望者と地域との連携役を担う農業者になりたいと思っており、就農当初からそういった気持ちを持っていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

短期間だったが、果樹研究センターで研修を受けた。また、周囲の農業者やJA指導員等へ積極的に指導を仰ぎ、技術力向上に取り組んでいる。

(2) 資金の準備

母親から経営を引き継いだことで、就農初期に大きな投資をしておらず、現在のところ資金の借入れは無い。

(3) 農地・住宅の確保

母親名義の農地や農業機械に加え、住居も引き継いだ。就農後、規模拡大を図るための農地探しについては、JAへ依頼したり、直接農業者と交渉したりするなどして確保した。

(4) その他苦労したこと

法人を設立して若い世代が就農する際の受け皿になりたいという思いと、個人経営を長年取組まれてきた地域農業者との間に、考え方のギャップがあること。

また、想像以上に規模拡大に係る経費(人件費、資材費等)が高く、毎年の収支バランスを取りながら経営発展に取り組むことが難しい。

5 農業経営の特徴

現在、母親から引き継いだ農地の品種更新に取り組んでおり、自身が所有する農地だけでは、所得が上がらない状況にある。そこで、地域で不足している労働力の補填を目的に、作業受託に取り組んでいる。今後、この仕組みを発展させ、自社で受け入れ育成した若い労働力を、地域に提供する仕組みを作りたいと考えている。

6 これからの夢

県下有数のかんきつ産地として、地域の存在感を高めていき、新規参入者が、農業をするならここをしたいと言われる地域にしていきたい。そして、その地域作りの中心を担う農業者になりたいと考えている。

7 成功したキーポイント

私は、分からないことを分からないままにしないよう意識しており、解決するまで多様な人々に質問したり、意見を求めたりしている。それを実現できるコミュニケーション能力の高さは、自身の最大の強みだと感じている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

情報を集めるということ意識してほしいです。特に、親元就農の場合、家族からの情報が多く偏った思考になってしまいます。できる限り多様な経営体の情報を取得し、自身の経営スタイルを早期に確立できるよう頑張ってください。

○ 指導機関からのひとこと

越智滋彦さんは、就農3年目でありながら、自身の経営発展だけでなく、地域農業の維持・発展も視野に行動されています。地域には、若い世代の農業者が集まっており、そのグループのリーダーも担っています。近く法人化する見込みであり、長く地域を牽引する担い手として、今後の活躍が期待されます。

執筆機関

東予地方局農林水産振興部今治支局地域農業育成室
電話番号 0898-23-2570



自身の経営を支えていただいている方々